

地域科学 KKJ セミナーニュース 571
大学DX、オープン&クローズの情報基盤――

研究データポリシーの策定と管理・公開・利活用

～ 世界の潮流／政策シナリオ／団体・大学の取組み／

学内合意／研究現場を元気に ～

【10月29日（金曜日）開催】

ご参画・ご派遣のお願い

世界の科学研究の最大のトレンドは、“オープンサイエンス”であり、各大学・研究機関におかれては、既に戦略テーマとして、データ共有・利活用の対応策に着手しておられることと拝します。

さる3月下旬の「科学技術・イノベーション基本計画」（閣議決定）においても、「新たな研究システムの構築に向けたオープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進」「機関リポジトリを有する全ての大学・研究機関等において、2025年までに、データポリシーの策定率が100%になる」との主要な数値目標を掲げております。

“研究データマネジメント（RDM）とは”、“研究データポリシーの策定とは”。まず、全体像の把握には、オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）のサイト内にある「オープンサイエンス関連の基本ドキュメント」のページが有益な情報源です。

内閣府・文科省等の「政策文書等」の一覧とともに、大学ICT推進協議会（AXIES）、国立大学図書館協会、研究データ利活用協議会（RDUF）等の「関連組織」の取組みについて、ホットな情報をリストアップしております。

なお、「研究データポリシー」策定の先進例は下記のとおりです。

- ・ 京都大学研究データ管理・公開ポリシー（2020年3月）
- ・ 名古屋大学学術データポリシー（2020年10月）
- ・ 国立大学法人東京工業大学の研究データポリシー（2021年4月）

本セミナーでは、AXIES研究データマネジメント部会及びJPCOAR研究データ作業部会等における、先進的な取組みを担う本分野のコアパースン各位を講師陣にお招きしました。

AXIES会長の深澤 良彰氏（早稲田大学）からは、大学における研究DXの実現に向けたデータの重要性、新しい研究パラダイム、そのための共通研究データ基盤の現状と持つべき機能、さらに、研究者と大学組織それぞれからの視点で今後の研究DXの方向性について、基調となるご講義を賜わります。

林 和弘氏（科学技術・学術政策研究所）からは、これまでの学術情報流通変革とともに、G7オープンサイエンスWG専門委員としてオープンサイエンスの国際的潮流、国内の政策シナリオ及び日本学術会議、SPARC、RDUF等の動向、そして大学への期待について、ご講義賜わります。

船守 美穂氏（国立情報学研究所）からは、大学における研究データポリシーの策定の背景と必要性とともに、この7月1日に公表されたガイドラインの要点であるポリシーの構成・策定プロセス・付属文書といった、より具体的な策定ガイド、ポリシーの策定事例のほか、これからの大学におけるデータガバナンスについて、ご講義賜わります。

青木 学聡氏（名古屋大学）からは、大学における研究データ管理（RDM）の組織的な体制、生じる様々な「ギャップ」とその解消に向けたアプローチ、研究データ管理・公開の実際、ポリシーの具体像、推進組織やそのスキル、支援組織や基盤整備といった方法論、さらに、“少し先の”展望について、ご講義賜わります。

◇ ご案内パンフレット(開催日程・各講義の講義項目など詳細を掲載)

 <http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/211029.pdf>

※なお、講師の“会場”または“オンライン”の出講形式は、10月20日（水）頃までに、小会KKJウェブサイトにてご案内いたします。